

手術の際の麻酔薬投与や呼吸管理、救急医療、さまざまな病気による慢性の痛みを緩和するペインクリニック外来など麻酔科の担当領域は広い。専門医が麻酔の種類や処置の方法などについて解説します。

知りたい！ 治療の最前線

◇37

手術の麻酔選択

一口メモ

富山大附属病院は、病気によるさまざまな慢性の痛みを軽減する「ペインクリニック外来」を開設している。がん手術後の痛みをはじめ、頭痛や带状疱疹後の神経痛、顔面に痛みが出る三叉（さんさ）神経痛、目やまぶたのけいれんなどを対象としている。

痛み緩和 患者負担軽く



山崎 光章

富山大附属病院
麻酔科診療科長

手術の際、病院で実施する麻酔には、全身麻酔と体の一部分の痛みを取る区域麻酔があります。

手術中見守る

最近、手術を全身麻酔で行うことが多くなってきました。患者さんが手術室に入った後、点滴を通して眠くなる

から、場合によっては心臓を補助する薬剤などを投与しています。さらに、患者さんの状態を把握するためにモニター装置を見て、呼吸や脈拍、血圧などを確認しています。

手術中は麻酔が効いていますが、手術後に麻酔の効果も切れ始めると、痛みを感じるようになります。患者さんに

さまざまな病気に対応

薬が投与され、その直後に眠りに入ります。手術中、積極的に薬を投与するので、手術の途中で目が覚めることはありません。

この手術の間、麻酔科医が患者さんを見守っています。人工呼吸器で呼吸を補助しない医療用麻酔を使用することもあります。

目を覚ました後、非ステロイド性抗炎症薬やアセトアミノフェンなどの鎮痛薬を服用してもらいます。痛みの程度によっては、依存性の問題がない医療用麻酔を使用することもあります。

近年は「エコー」と呼ばれる超音波診断装置を用いて、

次回5月12日に掲載します。

器の進歩により、麻酔は以前に比べて安全なものになりました。一般に全身麻酔による大きな合併症の発生は、健康な人では1万分の1以下とされています。

神経に直接投与

一方、区域麻酔は背骨の中を通っている脊髄の周囲や末梢神経の周囲に局所麻酔薬を注入します。

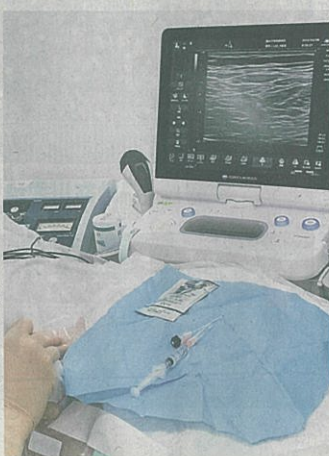
具体的には、腰部に細い針を刺して脊髄腔内に麻酔薬を入れる方法と、脊髄近くの硬膜外腔に麻酔薬を入れる方法

患者さんがお会いします。これまでの診察や呼吸器、循環器などの検査結果を基に全身状態をチェックし、手術を安全に行うにはどの麻酔方法がベストかを判断します。私たちの病院では原則、麻酔科外来で手術の2日前までに行っています。

患者さんが安全に手術を終え、手術後の痛みもできるだけ小さくなるのが私たちの仕事であると思っています。痛みを取り、患者さんの負担を軽減させることは早期回復のためにも大切です。痛みは我慢せず、麻酔科医や主治医、医療スタッフに相談してください。



手術の様子。麻酔科医がモニターを通して血圧や脈拍などの状況を確認している。富山大附属病院



区域麻酔の様子。麻酔科医が超音波診断装置（右）の画面を見ながら、神経に直接、麻酔薬を注入している。